



## 2025年2月7日に開催された 2024年度臨時評議員会の概要をお知らせします。

### <決議事項>

#### ●会長候補者内定について

- ・会長候補者選定委員会では、現会長の川合俊一氏が適任であるという結論に至った。
- ・選定委員会の推薦に基づき、理事会でも出席理事全員の承認を受け、本日の評議員会に上程された。
- ・川合氏からは会長在任期間中の業績・成果を交えた決意表明があり、それを受けて、選定委員会ではこれまでの活動、人柄、熱意などの観点から継続して会長としての活躍を期待する評価となった。

#### 【決議事項】

提案のとおり、川合俊一氏を会長候補者として選任する。

※なお、評議員会の承認を受け会長内定者となるが、正式な会長選任は6月13日の定時評議員会後に開催される新体制での臨時理事会承認時となる。

### <報告事項>

#### ●2025年度事業方針および計画について

JVAの中期経営計画に基づいて、それぞれの本部の事業方針として「1. 代表強化、2. 競技普及、3. マーケティング、4. 社会貢献、5. 組織改革」の5項目にわたって策定している。加えて、重点実施項目は事業方針に紐づき連動している。事業計画については、まだ理事会での承認を得ていないため、現時点では参考情報となっている。改めて理事会の承認を得た際には、評議員の皆様方に報告させていただく。

#### ●2024年度収支予測について

4月1日～12月31日までの予算と実績の差は、収益は2億6,500万円ほど予算を上回り、費用の方は9,900万円ほど下回る。

それに評価損益等を加えると、第3四半期までの経常的な増減は3億6,590万円プラスになる。ただし期中であるため、費用の期ずれがあり、それを見越して修正したものが下記の通りである。

当期の経常利益増減額は12月までの第3四半期の実績として、-1億8,700万円、これに費用が第4四半期にずれ込んでいるものが2億円ほどあるため、それを加味して、経常増減の実績は-3億9,000万円程度が第3四半期までの実態となる。それに第4四半期の収支予算見込みが+1,500万円あるため、



今年度の最終的な経常増減の見込みは－3億7,700万円相当かと予想している。  
当初予算との比較では、－5億1,900万円の予算であったため、約1億4,000万円の改善となる。これに年度末に予定している特定資産取り崩し額3億7,500万を相殺すると、最終的には一約240万円の見込みとなる。

見込みとして費用の面で多めに見積もっている部分があり、また実績等によっても数値が変わるが、基本的には収支均衡にもっていきけるよう予実を見ていきたい。期ずれも含めて修正すると、2024年度の最後は収支均衡と予測しているが、特定資産を取り崩しが前提であるため、厳しい状況であることは受け止めており、今後もしっかり見ていきたいと思っている。

### ●定款変更の件

國分専務理事より下記のように報告が行われた。

定款の変更については本来、本日議論いただく予定であったが、評議員の定数・報酬の提案は一度保留となったため、前回の評議員懇談会でもお伝えした通り、6月の定時評議員会でご議論いただく。本日はそれ以外の改善が必要な部分、現状に即した部分を反映した定款変更の方向性を事前にお示しする。6月の定時評議員会時に改めて提案させていただく。

### ●2025年度予算案の概要について

#### 【予算額】

収入：27億6,300万円前年度予算 21億500万円／比率 131.2%  
支出：27億6,500万円（前年度予算 26億2,500万円／比率 105.3%）  
損失：△200万円（前年度予算 △5億1,900万円／比率 0.003%）

※今後調整が入るため見直しも行われるが、現時点での集計値。

○収入については、スポンサー収入の進展等があるため、少し増えている形となっている。支出の方も当然強化等にも関わり、収入と相対する部分もある。ただ抑える部分についてはしっかりと抑えている。そのため損失については200万円となっているが、きちんと精査し、将来的にはゼロにしていきたい。前年度はこの段階では5億1,500万円のマイナスであったため、十分改善が見込める。

○ハイパフォーマンス本部ではロス五輪に向けた強化活動の充実等があり、支出も当然伴う。ただ収入の財源確保を工夫し、今後は紅白戦などでプラスの収入を得ることも可能である。収入を得ながらしっかり支出をカバーできる体制にしたい。

○ビーチバレーボール本部も同様に代表チームの強化投資に向けた事業を実施する計画があるため、インドア同様に当然収入よりも支出が増えるが、それぞれの本部の収入分（協賛金の増加、入場料収入等の増加など）で補っていく。

○競技普及については国内大会、委員会活動でのバレーボール普及を引き続き実施していくため、支出



は伴うが、同様に収入部分を充てていきたい。

- マーケティングについては、新たなスポンサーの獲得も見込まれている。  
また代表の人気等も含めて物販の収益拡大、先ほど少し触れた親善試合等を開催に伴う入場料や会場での物販、また通販等についても現状の人気を捉えて収入を確保し、支出の方にしっかり回していく好循環を繰り返していきたい。
- 業務推進については、現在加盟団体の法人化や MRS の改定に取り組んでいる。法人化を支援しながら MRS 登録料もしっかり確保する仕組みを構築したい。

2025 年度も 7,500 万円の特定資産準備資金を取り崩す予定がある。2024 年度の資産取り崩し額は 3 億 7,500 万であったため、24 年度に比べると額が減っている。そのため、これを充当しなくてもプラスになることを今後詰めていきたい。

支出と収入それぞれ増加の要因は、収入については協賛者の新規獲得、親善試合で入場料収入、インターネットを中心にグッズ販売の売り上げで増収を見込んでいく。  
また肖像を使った素材のニーズが高まっているので、その収入も期待できる。  
ファンクラブサイトであるバレどもの会員数は、中期計画の中で目標がすでに達成できているので、さらに高みを目指していく。

支出については、親善試合による経費が一方で膨らんできている。  
また VNL で上位に入賞することで賞金が増えており、それは当然選手に配付するため、打ち消される金額ではあるが、元々男子 3 位、女子が 8 位で組んでいたところ、去年は 2 位となっていることから、増額となっている。  
また、加盟団体の法人取得に対する助成も始まるため、支出増加の要因となる。

現時点では、収支均衡の予算を立てているが、一方で重点施策の実施も必須であることから、今年度傾斜的に配分をすべき部分もあるのではないかと議論を続けている。それに見合った収入増を裏付けして、支出についても必要なところにしっかりと傾斜をかけていきたい。残り 2 か月の間でしっかり詰めていきたい。

以上